

# ☆ 回りて向かう



## お香の話し ~その2~

近頃、御仏壇はあっても、お香をあまり焚かないお家が増えてきたような気がします。焚かない理由として、ご高齢の方の独り暮らしで火の気を心配されるということもよく解るのですが、宗派を越えて御仏前の中央には必ず香炉が置かれていますように、仏教儀礼の中で最も尊ばれているものが実はお香です。

夏休みに開かれた高知県仏教青年会の布教行事『子どもの集い』にて、匂い袋作りの講師を務めて下さった清水悦子さんに改めてお話を伺いました。  
(以下、清水さんのお話をまとめました。)

『香害』という言葉が最近注目されているんですよ。部屋の芳香剤や衣類の柔軟剤さらにはトイレの消臭剤からブレスケアに至るまで、現代の我々の生活に組み込まれている多くの化学物質由来の香りがホルモンの働きを乱したり頭痛や吐き気を起させたり、実際の身体症状として悪影響を与えているということが全国的に報告されているんです。

そもそも四季を感じて営みを築いてきた日本人は香りに対して敏感な感受性を持っています。いわゆる『お香』の文化は仏教の伝来と一緒に伝わったのですが、それは平安時代を通して後に『香道』として洗練され日本独自のものになっていきます。

香道の世界では、香りを鑑賞することを『香りを聞く』と表現し、さらに種類の違いを聞き分けることを『組香』と呼んでいます。

身近な仏教では主にお焼香の中で使われている白檀や沈香が有名ですが、これら天然由来のお香全般には防虫の作用があったり、香害の逆で良薬として焚いて鼻から体内に取り入れることで、身体の不調和を調える効果が大いにあるんです。

ご覧の通り、ここにもたくさんの種類があるんですが、これらを組み合わせる時には『五大香』というバランスを常に意識して取り組みます。



ほとんどの場合お香の原料は植物、中でも樹が多いので、そのお香が樹のどの部分から精製されたかによって五つに分け、その時々々の趣旨に合わせて五大香は調香されます。

例えば、山奈はウコンの一種で根、白檀は木そのものなので幹、極上安息香はエゴノキ科の樹脂、スパイスのクローブとしても有名な丁子は実、そしてお庭のお花として馴染み深いカミツレは葉、というようにそのお香の由って来る大地の恵みに感謝しながら調香をします。

実際に近年は東南アジアやインドなどの原産地でも健康ブームが巻き起こって特に

香木が以前よりも大量に消費されているようで、その影響から日本に輸出されることが難しくなって値段が高騰してきています。

また、香木以外でアロマセラピーなどでも使用頻度が高い<sup>カッソウ</sup>藿香は、パチョリという草花を全草乾燥させたもので、これが精油になると香木とは対照的に凝縮された強烈な清涼感のある香りが放たれます。

そして五大とはまた違った『薬味』という酸・苦・甘・辛・鹹の5種類の観点から分量を調香し、各家庭で継承された秘伝の『練香』でお客様をもてなすというのも香道の醍醐味です。

## 『てふてふ』の清水悦子さん



隠れ家サロン\*てふてふ\*  
高知県高知市東秦泉寺94-1  
TEL 080-2971-8444  
定休日 不定休  
アロマセラピー&着付け教室  
&エステもやられてます(^^)